

コラム

サル対策 ほうき作りが新たな一手

サル害対策と遊休農地を利活用した特産品の創出としてほうきを手作りしている「安曇野ほうきプロジェクト」。昨年試験的にホウキモロコシを栽培した結果、被害なく収穫でき、やわらかくて長持ちする純国産のほうきが完成しました。事務局の野中由紀子さんは「遊休農地に人が出入りすることで、ここは人のテリトリーだとサルに思い込ませられれば」とサル害対策への期待を込めます。プロジェクトは本年から参加者を募り栽培講座を行う



昨年完成したほうきを持つ
プロジェクト代表の丸山さん(左)と野中さん(右)



Instagram

など、活動を本格化させています。8月中には収穫し、脱穀。その後乾燥させ9月からほうき作りに取り組みます。



INFO 補助金のご案内

市では、農業者が農作物を鳥獣害から守るために防護柵の設置や機器の購入をする際の費用や、追い払いに使用するエアガンの購入費用に補助金を交付しています。

また、追い払いに使用するエアガンの貸し出しやロケット花火などの配布も行っています。

補助額などの詳細は市HPを確認いただくか問い合わせください。

間耕地林務課 Tel.71-2432



3 サル出現の要因を無くす

すぐにできるサル対策にご協力を



食べ物や生ごみを外に置かない

サルが好むトウモロコシやカボチャ、果樹などは、収穫したら自宅の中に入れるか、サルから見えない場所に置きましょう。また、生ごみも外に置くとサルがあさりに来ます。



きちんと収穫する

カキやクリ、リンゴなどの果樹はサルの大好物。収穫しない木があれば登って食べています。できるだけ果樹は収穫しましょう。収穫しない木は伐採をご検討ください。



辛味や香り、アクの強い植物を植える

サルはトウガラシやシソ、ゴボウ、ショウガ、ワラビなど、辛味や香り、アクの強い植物を嫌がります。野菜の周りにそれらを植えることも効果的と言われています。

INTERVIEW

まずは数値化できる被害を減らしたい

隊員になったきっかけは

安曇野の自然環境を守りたいと思い、隊員に応募しました。本来サルは山の中で暮らしているのに、人の住む里まで下りてきてしまっています。その理由の一つは、山と里の境界が分かりにくくなっていることだと思います。

自 宅近くで頻繁にサルを見かける中で、何かできることはないかと隊員に応募した加藤厚さんに話を聞きました。



ニホンザル追い払い隊
加藤 厚さん (穂高牧)

活動って感じない理由は

山の生態系が崩れ、バランスが保たれていないと感じるようになり、追いついていないと感じる。と「サルを追いかけるだけでは生ぬるい。駆除してほしい」という意見を聞くこともありません。被害を受けている人にしてみれば当然の意見だと思いますし、山の生態系を守るため一定数を駆除することは必要だと考えます。



駆除をすればサルは目の前からいなくなります。しかしサルがいなくなれば、それまでサル

結成から1年。感想は

「以前よりサルを見かけなくなった。ありがたい」と言われることもあり、多くの皆さんに活動を応援してもらえてうれしいです。

サルの被害には、数値化できるものとできないものがあります。「自宅に入ってくる」「畑などにフンをして困る」といった、数値では表わすことが難しい被害も当然ありますが、まずは「農業被害額が減る」といった数値化できる被害が減り、追い払いの成果が表れることが目標です。



2時間ほどサルを追ひ、里の班と合流。GPS に群れの位置を落とし込み翌日の班へ引き継ぎます。



サルが山に入っても活動は継続。この日活動していたもう一つの班と合流し、サルを山の奥まで追ひやる班と里に来ないように追ひ払う班とに別れて活動。位置情報を共有し、サルを里から離します。



3方を囲むように体制を組み、サルの逃げ道を山側に作ります。サルは茂みや木に身を潜めて人間の様子をうかがっていることもあるので、音を立てるなどして追ひ払っていきます。



集合場所に着いたらGPS で群れの位置を確認。1班3人体制で動きます。

追ひ払い活動に同行
活動の様子をレポート!